

第1回 進路説明会



練馬区立開進第二中学校

3年 組 番 氏名

【目次】

表紙・目次	
校長より	P.2
進路説明会の目的	
1 義務教育最終学年として	P.3
2 入試の仕組み	P.4
3 昨年度の特徴	P.5
4 私立高校について	P.6
5 都立高校について	P.8
6 調査書点について	P.9
7 その他の進路先	P.10
8 保護者の方へのお願い	P.11
9 今後の予定	P.11

進路選択に向けて

校長 平野 茂

新年度が始まり、早くも二ヶ月余りが過ぎました。三年生は、修学旅行や部活動の夏季大会、学校行事など、中学校生活の集大成に向けた充実した日々を過ごしています。その一方で、卒業後の進路について具体的に考え始める、大切な時期を迎えました。

進路選択は、人生における大きな節目の一つです。多くの生徒にとって、自分自身の将来について真剣に考え、方向性を決める初めての経験になります。しかし、「どの学校に行くか」ということだけが進路ではありません。「なぜ進学するのか」「自分は将来どのような生き方をしたいのか」「何を学びたいのか」を考えることが、進路選択の出発点になります。

保護者の皆様におかれましても、ご自身が経験された高校受験とは制度や方法が大きく変わっていることに驚かれるかもしれません。現在では、学校説明会や見学会への参加、インターネットによる出願、オンラインでの情報提供などが一般的になっています。また、東京都立高校の入学者選抜制度についても、近年さまざまな変更が行われています。進路に関する情報は毎年更新されますので、学校からのお知らせや東京都教育委員会、高等学校等のホームページなどを確認しながら、正確な情報を得ることが重要です。

進路選択において、特に大切にしていきたいことが三つあります。

一つ目は、「早めに動くこと」です。高校説明会や見学会は、定員制や予約制となる場合が多く、希望する日時に参加できないこともあります。また、実際に学校へ足を運ぶことで、パンフレットだけでは分からない雰囲気や通学環境を知ることができます。進路先の検討は、早い段階から少しずつ始めることをお勧めします。

二つ目は、「家庭で十分に話し合うこと」です。進路は、生徒本人だけでも、保護者だけでも決めるものではありません。お子様の希望や適性、学習内容、通学時間、卒業後の進路、経済的な面なども含めて、ご家庭で丁寧に話し合っていたいただきたいと思います。

三つ目は、「学校と連携すること」です。進路について分からないことや不安なことがありましたら、遠慮なく学校へご相談ください。担任をはじめ、学年教員、進路担当、管理職も含め、組織として生徒一人一人の進路実現を支えてまいります。

本日の進路説明会では、入試制度や今後の予定、進路決定までの流れなどについて説明いたします。すでにご存じの内容もあるかと思いますが、制度は年々変化しています。ぜひ最新の情報としてお聞きいただき、ご家庭での話し合いのきっかけとしていただければ幸いです。

三年生一人一人が自分らしい進路を選択し、明るい未来を切り拓いていけるよう、学校として全力で支援してまいります。保護者の皆様のご理解とご協力を、どうぞよろしくお願いいたします。

【第1回進路説明会の目的】

- ・義務教育最終学年としての心構えをもち、計画的に行動できるようになる。
- ・自分の進路実現のために、1年間を見通して必要な情報を収集できるようになる。

Ⅰ 義務教育最終学年として

(1) 進路選択に向けて

中学3年生になり、卒業後の進路について考え、決定する時期になりました。「進路」とは、進学(高等学校等に入学すること)だけではありません。就職という選択肢もあります。自分自身の進む道について、自分で考え、最善の道を決定していきましょう。

そのためには、「なぜ高校へ進学するのか」「なぜ専門的な分野に進むのか」という自分の目的をはっきりさせることが大切です。今までの経験を振り返り、自分への理解を深め、将来について考えましょう。また、様々な情報を収集し、自分の希望を叶えるための進路を選択していきましょう。

(2) 家庭での話し合いについて

多くの中学3年生にとって、卒業後の進路を決定することは、人生で初めての大きな選択です。自分の希望や状況を保護者の方に伝え、助言を聞きましょう。家庭の中でしっかりと話し合いをもつように心がけてください。そして、家庭全体で総合的に判断し、納得できる進路を選択しましょう。例えば、「通学時間」、「学費」、「学習内容」、「卒業後の進路」について、家庭で確認しておきましょう。

(3) これからの中学校での進路学習

① 進路希望調査と三者面談

6月中頃に「第1回進路希望調査」を配布します。保護者の方と十分に話し合ったうえで記入し、7月3日(金)までに提出しましょう。これに基づいて、夏季休業中に第1回三者面談も行います。そこで、みなさんの進路の希望や状況、学校での取り組みについて確認し、夏休みにやるべきことを明確にします。

また、11月中旬の「第3回進路希望調査」に基づく12月上旬の三者面談で、進路希望先(志望校等)を最終的に決定します。

② 復習確認テスト

定期考査以外にも、7月・9月・11月(予定)に復習確認テストを行います。試験範囲は1・2年生の学習内容も含めた総合的な問題です。現時点での学力を把握し、今後の学習や進路選択に活かします。また、三者面談の資料としても活用します。

③ 配布物・掲示物

学校が発行する「3学年だより」「進路だより」は必ず読みましょう。そして、家庭へ持ち帰り、保護者の方にも見てもらいましょう。進路情報や卒業に向けてのお知らせなど、重要な情報が掲載されています。また、3学年の廊下には、ポスター等で多くの進路情報が掲示されます。

④ 提出物

提出物は期限を厳守して提出しましょう。高校等を受験する際には、受験校へ「願書」等を提出する必要があります。提出期限を過ぎれば受理されず、受験することができません。また、受験する生徒全員分を中学校がまとめて高校へ提出することもあります。一人の提出遅れが、全体の手続に影響を及ぼす場合があります。余裕をもって準備しましょう。

2 入試の仕組み

【私立高校】

① 推薦入試	<ul style="list-style-type: none">・ 第1志望であり、学校からの「推薦」を受け、合格した場合は必ず入学することが条件である。また、他の高校は受験できない。・ 高校ごとに「推薦基準」があり、それを満たしている受験生が出願できる。 ※ 推薦基準を満たさない場合には、「第1志望優遇」制度がある場合もある。
② 併願優遇入試	<ul style="list-style-type: none">・ 第1志望の高校に不合格の場合、必ず入学することを前提として出願する。 ※ 第1志望は「公立高校のみ」や「私立高校でも可」など高校ごとに条件が異なる。・ 推薦と同様、「基準」が設けられている。
③ 一般入試	<ul style="list-style-type: none">・ 多くの私立高校が2月中旬に入試を行う。 ※ 受験日が数日設定され、選択できることが多い。・ 英語、数学、国語の3教科の学科試験と面接を行うことが多いが、学校によって異なる。

【都立高校】

④ 推薦入試	<ul style="list-style-type: none">・ 第1志望であり、学校からの「推薦」を受け、合格した場合は、必ず入学することが条件である。また、他の高校は受験できない。・ 「一般推薦」の他に「文化・スポーツ等特別推薦」がある。
⑤ 一般入試	<ul style="list-style-type: none">・ 2月下旬の第一次募集・分割前期募集と3月上旬の第二次募集・分割後期募集がある。

- ・ ①④の推薦については、基本的に中学校長による学校「推薦」を受けます。普段の学習や生活態度が良好であれば、「推薦」を受けることができます。
- ・ 推薦は【私立高校】と【都立高校】のうち、いずれか1校のみに限定して出願することができます。
- ・ 東京にある【私立高校】【都立高校】以外にも、【国立の高校】【国立・都立・私立の高等専門学校(高専)】なども受験日が重ならなければ受験することができます。さらに、千葉・埼玉・神奈川など全国の【私立高校】を受験することも可能です。

《志望校入学までに提出必要な書類・手続き》

例) 都立高校の推薦入試と私立高校の併願優遇を利用し、都立高校に合格し入学する場合

中学校に提出	都立高校に提出	私立高校に提出
<ul style="list-style-type: none"> ・ 進路希望調査 ・ 調査書記載事項確認書 ・ 推薦・併願優遇願い ・ 調査書作成願い ・ 卒業証書の氏名等の確認書 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自己 PR カード(推薦希望者) ・ 受検料の納付 ・ 都立推薦受検の願書 ・ 入学誓約書 ・ 入学金の納付 ・ キャリアパスポート 中学校が作成 推薦書・調査書・健康診断票等 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 受験料の納付 ・ 私立(併願優遇)受験の願書 ※ オンラインで作成し、その後郵送で提出という場合もあり ・ 入学金延納願い(必要があり、制度がある場合) 中学校が作成 調査書・健康診断票等

※都立高校の願書は中学校で配布されます(例外あり)が、私立高校は各自で入手し準備する。

3 昨年度の特徴 入試制度の動向と昨年度の傾向

(1) 私立高校

- ① 学校説明会・入試相談会のオンラインでの実施の増加(予約制で人数を減らした開催が目立つ)

第一志望の高校でも、なかなか予約が取れず困っている先輩がいました。

→早めの情報収集と予約が必要です。

→オンラインで説明会に参加したとしても、実際の通学経路や高校周辺を実際に歩いてみるなど、確認することも必要です。登校の練習をせずに受験当日を迎えることがないようにしましょう。

- ② オンライン出願の高校が増加

インターネット上で入学願書や受験票等を事前に作成し、送信します。その後、印刷し、学校が作成した調査書とともに郵送するという方法が多くみられました。

- ③ 受験日に体調不良や新型コロナウイルス等でやむを得ず欠席する場合の対応は、学校によって様々です。

→受験日当日まで、受験校のホームページ等を確認し、最新の情報を基に行動する必要があります。

- ④ 通信制高校の多様化

中学校3年生の進学志望者のうち、通信制高校を第1志望とする生徒が、これまでよりも増加しています。それに伴い、様々な特色をもつ通信制高校が新設されました。

→通信制高校では、通学スタイル、学習内容(学科)、行事やスクーリング、部活の有無など、本当に多様です。学校の特色や卒業後の進路先などを十分に調べ、検討しましょう。

(2) 都立高校

※ 今年度の詳細は未定です。夏休み前に発行される、「令和8年度東京都高等学校募集案内」を参照ください。

- ① 推薦に基づく選抜、「集団討論」について

⇒3年前までは新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から「集団討論」を中止していましたが、昨年度は普通科6校(日比谷・竹早・鷺宮・西・北園・調布南)で実施されました。

② 出願方法について

推薦に基づく選抜、学力検査に基づく選抜、その両方について、全校でWeb出願を実施します。

⇒それぞれのご家庭において、インターネット上で出願に関する必要事項等を入力していただく必要があります。

③ 合格者の発表について

出願サイト上で個別の合否を発表します。

⇒なお、従来のような入学願書出願校(受検校)における掲示板による合格発表も併せて行われます。

④ 男女合同選抜について

⇒これまで全日制普通科(単位制・コースを除く)で、男女それぞれで定員が設定されている男女別定員が実施されていましたが、令和6年度入試より、すべての高校で男女合同選抜になりました。

4 私立高校について

(1) 学校・学科の種類

① 普通科、工業科、商業科、体育科、外国語科などだけではなく、演劇科、航空工学科など、特色のある学科もあります。

② 特進コースや理数コース、国際英語コースなどを設けているところもあります。

(2) 受験できる学校数

① 推薦受験は、「私立高校または都立高校」の1校のみです。

② 一般受験は、受験日が重ならなければ何校でも受験できます。東京都以外の高校の受験も可能です。

(3) 私立高校の選抜方法

① 推薦入試

- ・ 学校からの推薦を受け、受験します。
- ・ 各私立高校には「基準」があり、それを満たしていないと受験資格がありません。
- ・ 推薦入試で合格した場合はその高校に必ず入学することが条件です。
- ・ 私立高校の推薦入試は、12月15日以降に各私立高校と中学校間で「入試相談(※1)」が行われます。

(※1)推薦受験を希望する生徒一人一人について、基準を満たしているかなどを中学校と高校で確認するものです。

- ・ 推薦入試では主に「調査書」、「面接」、「作文」をもとに、総合成績で判定されます。近年、学力を測る「適性検査」を導入する高校が増えてきました。
- ・ 推薦入試を利用する際に、学校見学や高校説明会などに参加しておくことを条件としている私立高校もあるので注意が必要です。
- ・ 推薦入試は中学校と私立高校の信頼関係がなければ維持できない制度です。入試のときはもちろんのこと、入学後に生活態度が悪い場合などは、推薦が取り消しになる

場合があります。

② 一般入試

- ・「学力テスト(主に国語・数学・英語の3教科)」、「調査書」、「面接(グループまたは個人)」などをもとに総合成績で判定されます。

※ 音楽科や美術科では、夏休みや冬休みに講習会を設けている高校もあり、それを受講しておく、高校の様子や自分の実力が把握できます。

③ 併願優遇制度(一部例外あり)

- ・ 併願優遇制度を利用する場合も「入試相談」が行われますので、学校からの推薦を受け、受験します。
- ・ 都立高校が第1志望で、併願優遇制度を利用する私立高校が第2志望であることが条件(公立併願)のことが多いです。
- ・ 都立高校ではなく、他の私立高校が第一志望でも、併願優遇制度を利用できる学校(私立併願)もあります。受験校が公立併願のみか、私立併願可かを確認する必要があります。
- ・ 各私立高校には「基準」があり、それを満たしていないと受験資格がありません。
- ・ この制度を利用した場合、一般受験をした生徒よりも合格の可能性が高くなります。ただし、『第1志望の高校に不合格の場合はその私立高校に入学しなければならない』という条件が付きます。

④ 第1志望優遇制度(一部例外あり)

- ・ その私立高校が第1志望でも、高校等の推薦基準を満たしていない場合に、利用できる制度です。入試相談が行われるため、学校からの推薦を受け、受験します。
- ・ この制度を利用すると、『合格した場合には、その私立高校に入学しなければならない』という条件があります。
- ・ 優遇の内容が、一般入試の得点に「加点する」という場合が多く、必ず合格するとは限らないため、他の高校への併願受験も検討する必要があることもあります。

(4) 出願について

- ① 基本的に志願者はインターネット上の専用サイトで志願者情報を登録しますが、高校によって異なるため、募集要項をよく読み、必要な書類や手続きを確認してください。
- ② 出願には、「調査書」、「推薦書」など**中学校が準備する書類**も必要になります。「調査書」、「推薦書」などはインターネット上や学校説明会等で入手することができますので、各ご家庭で準備をお願いします。

※ 家庭で記入するものと担任が記入するものを間違えないように注意しましょう。

(5) 手続きについて

- ① 合格した際の手続きの締切日も事前に調べておく必要があります。特に、都立高校を第1志望にしている人は受験する私立高校が都立高校の発表日まで入学金の納入を待ってくれるか否かを必ず確認しておくことが大切です。
- ② 手続きの締切日を都立高校の発表日としている高校もありますが、『延納願』を提出しなければ、入学金の納入を待ってくれない高校もあります。

※ 入学金等の納入については、全額払い込みが必要な高校、一部払い込みが必要な高校、全額払い込みが必要であるが都立高校の合格書を見せると全額(または一部)返還し

てくれる高校など様々であるので募集要項をよく読みましょう。また、成績優秀者や特技が優秀な者に対し授業料や入学金などの一部もしくは全額を免除する特待生制度や独自の奨学金制度がある高校も多数あります。

5 都立高校について

(1) 学校の種類 ⇒例年、夏休み前に「東京都立高等学校募集案内」が配布されます。参照してください。

- ① 普通科だけではなく、さまざまな専門学科があります。また、全日制だけではなく、登校時間を選択する定時制もあります。
- ② 入学する目的に合わせて、大学進学に力を入れている「進学指導重点校」、自分の個性や進路希望に合わせて科目を選ぶ「総合学科」、学年制ではなく必要単位を習得して卒業する「単位制」、これまで自分の能力や適性を十分に生かしきれなかった生徒のための「チャレンジスクール」、小中学校の学びなおしを含めて生徒をサポートする「エンカレッジスクール」など、多様なカリキュラムの高校があります。

(2) 都立高校の選抜方法

① 推薦に基づく選抜(推薦入試)

- ・ 学校からの「推薦」を受け、受検します。
- ・ 学力検査はありません。中学校長からの「推薦書」、「調査書」、「面接(集団討論)」、「小論文(作文)」(学校により、実技試験等)をもとに総合成績で判断されます。
- ・ 合格した場合はその高校に入学することが条件です。
- ・ 全体的に倍率の高い学校が多いです。(一般入試も含めた募集定員全体の2割しか合格できないため。)
- ・ 推薦受検が不合格となった場合でも、一般入試を受検(同じ学校か他の学校)することができます。

② 学力検査に基づく選抜(一般入試) ≪第一次募集・(分割前期募集)、第二次募集・(分割後期募集)≫

【全日制課程】

- ・ 第一次募集および分割前期募集については、学力検査(国・数・英・社・理の5教科)の成績と、各中学校から提出される調査書をもとに、総合成績で判断されます。
- ・ 学校によっては、面接、作文(小論文)、実技検査を実施する場合があります。学力検査の成績と調査書点の比は、平成28年度の入試より原則『7:3』となっています。

※ 一般入試の募集人員をあらかじめ分割し、第一次募集期間に募集する学校(分割前期募集)と第二次募集期間に募集する学校(分割後期募集)があります。(田柄・練馬工科ほか)

※ 第一次募集をする学校は、合格者が入学手続きをしても定員に満たない場合には第二次募集を行います。逆に、第一次募集で定員に達した高校は、第二次募集は行いません。

- ・ 第二次募集および分割後期募集については、学力検査(国・数・英の3教科)の成績、各中学校から提出される調査書をもとに総合成績で判断されます。学校によっては、

面接、作文(小論文)、実技検査を実施する場合があります。

- ・ 学力検査の成績と調査書点の比は平成28年度の入試より原則『6:4』となっています。

【定時制課程】

- ・ 第一次募集の試験科目は、3~5教科(国・数・英・社・理の中から)で高等学校が決めます。学力検査と調査書の比率は『7:3』または『6:4』です。
 - ・ 第二次募集は国・数・英の3教科となります。学力検査と調査書の比率は『6:4』または『7:3』です。第一次募集および第二次募集ともに面接が実施されます。学校によって、作文(小論文)、実技検査を実施する場合があります。
- ※ 「第一次募集」を行う高校では、第二次募集が必ずあるとは限りません。

(3) 出願について

- ① 都立高校の出願はインターネット上で(miraicompass)行います。

※ 詳細は後日、進路だよりなどでお知らせします。

6 調査書点について ※ESAT-Jも含む

(1) 評定の合計点と調査書点について

- ① 評定の合計点とは、9教科の成績(5段階の評定)の合計点(45点満点)のことを指します。
- ② 11月に実施される英語スピーキングテスト(ESAT-J)の結果は、評価に応じて加算点(最大20点)が与えられます。
- ③ **都立高校(推薦入試)と私立高校(推薦入試・一般入試)は評定の合計点(A)を用います。**

※ ただし、観点別学習状況の評価を用いる都立高校(推薦)もあります。

- ④ **都立高校(一般入試)は調査書点(B)を用います。**

【調査書点の計算の仕方】

(例) 9教科全て(オール)4の場合

A=評定の合計点 : 9教科×4=36 [点] ⇒ 9教科をそのまま足した数字
評定

B=調査書点 : 5教科×4 + (4教科×4×2)=52 [点] + ESAT-J
20 32 結果

⇒ 国・数・社・理・英はそのまま足した数字(20)

音・美・体・技家は足して2倍した数字(32)の合計

※実技教科は評定の2倍の値となる。

- ・ 受検(受験)用に出される成績は、「4月から11月までの」総合成績です。
- ・ 都立高校では、その成績を資料として見ます。
- ・ 私立高校では、その成績を資料にする高校がほとんどですが、1、2年生の学年成績と合わせて3学年分を参考にする高校や、12月の「入試相談」のときに3年1学期時点での成績を参考にする高校もあります。

- ※ 受験間際になって後悔しないためにも、授業を大切に学びましょう。
- ※ 定期考査だけではなく、授業態度（授業内容を深める意見や発言、積極性等）、小テストや提出物なども評価に加味されます。
- ※ 実技教科では、作品の提出や実技テストが評定に大きく影響しています。
（美術や技術・家庭科の作品の未提出、音楽での実技の苦手意識、体育の実技等での安易な見学が、評価の低下につながる可能性があります。要注意です。）
- ※ 授業への取組が不十分だった（見学、未提出、授業態度等）の結果、成績が想定より低くなり、愕然とするケースも見られます。注意しましょう。

(2) 調査書について

- ① 受験の際に中学校から高校へ送られる資料のことです。
- ② 内容は、氏名・住所・生年月日・成績（評定の合計）・学習の記録・諸活動の記録・健康の記録などです。

- ※ 諸活動の記録とは、委員会活動・部活動・ボランティア活動等の記録のことです。
（諸活動の記録については、事前に皆さんへ今までの活動内容を確認しますので、3年間の委員会や部活動の功績、取得した資格、課外活動などで取った賞などを記録しておきましょう。）

7 その他の進路先

(1) 都立産業技術高等専門学校(都立産技高専)、国立高等専門学校(国立高専)、

① (私立)サレジオ高等専門学校

- ・ 卒業までの5年間で、工業に関する専門的な知識の修得とともに、実践や体験を重視したものづくり教育を行う学校です。

(2) 専修学校および各種学校について

- ① 修業年限はさまざまです。大学の受験資格が得られる学校や、通信制高校との提携により高校卒業の資格が得られる学校などもあります。

(3) 職業能力開発センター(旧職業訓練校)について

- ① 専門技術の習得を目的とした施設です。授業料は無料、教科書代は自己負担になります。新たに職業に就きたい人、求職中の人、転職希望の人が募集の対象で、募集人員は多くはありません。科目によりますが年に4~8回募集があります。修業年限は科目により6ヶ月、3ヶ月、2ヶ月と様々です。

(4) 就職について

- ① 就職する場合は、ハローワーク池袋(池袋公共職業安定所)を介して進めていきます。
- ② 近年、中卒者に対する求人はほとんどありません。

6月…求人受付開始

11月…求人一覧表作成、提供および就職希望者の職業相談

(ハローワーク・本人・保護者・学校の四者面談、適性検査、職業講話の実施)

12月…応募書類の作成および提出(職業相談票、写真添付、校長印押印)

1月…事業主に対する応募書類の紹介、選考、採用内定、都立技術専門校への入校
幹旋

8 保護者の方へのお願い

(1) 提出物について

- ① これから進路についての提出物や書類を提出する機会が多くあります。中学校で指定した提出期日に遅れると書類作成等に支障を来し、その結果、高校への提出期日に間に合わなくなるおそれがあります。くれぐれも、提出期限は厳守していただきますよう、お願いします。

(2) 規則正しい生活習慣および服装・身だしなみ・マナーについて

- ① 朝食をしっかりと摂り、時間に余裕のある登校にご協力ください。8:25に出欠確認を行います。
- ② 登校の際、服装・身だしなみをご家庭でもチェックしてください。
- ③ 家庭でのSNSルールを話し合い、スマートフォンやタブレットの適切な利用をお願いします。

(3) 子どもの能力・適性を理解する

- ① 「志望校の選び方」で申し上げたように、進路の最終決定を行うのはお子様本人と保護者です。
- ② 「保護者の考えのみ」、「お子様の考えのみ」「塾等からの助言のみ」で判断するのではなく、家庭内で十分に話し合いの時間をもち、納得のいく志望校、就職先を選んでください。

(4) 学校との連絡は密に

- ① 分からないことや心配なことはご相談ください。相談がある場合は事前に中学校へご連絡をください。

(5) 土曜授業と学校説明会等が重なり、説明会に参加する場合は事前に学校名等をご連絡ください。

- ① 欠席扱いとなりますので、登校を優先できるようなスケジュール管理をお願いします。参考として、入試当日は、出席停止扱いとし、出席すべき日数から除きます。

9 今後の予定

※ 斜体の日は、本年度の日程がまだ決定していません。昨年度の日程を参考に掲載しています。決定しましたら、お知らせいたします。

	進路に関する日程	学校行事
6月	12日(金) 第1回進路説明会 29日(月)～7月1日(水) 1学期期末考査(9科)	6日(土) 運動会
7月	7月2日(木) 第1回復習確認テスト(予定) 7月3日(金) 第1回進路希望調査提出締め切り 21日(火)～ 第1回三者面談 <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;"> 高校見学会・説明会の参加 (進路決定までは随時) </div>	夏季休業 21(火)～8月31日(月)

9 月	下旬 24日(木)・25日(金)	第2回復習確認テスト 2学期中間考査(5科)	
10 月	2日(金) 中旬 26日(月)~30日(金)	第2回進路説明会 第2回進路希望調査 第2回三者面談	9日(金) 開ニフェス ティバル
11 月	上旬 16日(月)~18日(水) 下旬 22日(日)	第3回復習確認テスト 2学期期末考査(9科) 第3回進路希望調査 英語スピーキングテスト(ESAT-J)	
12 月	上旬~ 2日(水)~8日(火) 中旬 ※20日~1月15日頃まで ※20日~2月5日頃まで	校長・副校長等による面接、(集団討論)練習開始 第3回三者面談 私立推薦・併願優遇入試相談 都立推薦出願 都立一般出願	冬季休業 26日(土)~1月7日 (木)
1 月	※上旬 ※下旬~ ※22頃~ ※26日・27日頃 ※31日頃	都内私立推薦出願 都内私立推薦入試 都内私立一般出願 都立推薦入試 都立推薦入試発表	
2 月	※8日頃~ ※21日頃	<u>都内私立一般入試</u> <u>都立一般入試</u> <small>(前期・第一次募集)</small>	5日(金) 学習展示 会
3 月	※3日頃 ※上旬~	<u>都立一般入試発表</u> 都立分割後期、第二次入試	11日(木) 校外学習 19日(金) 卒業式